

2017年8月14日掲載

口腔がん

早期なら 90%超完治

口腔がんとは口の中にできる悪性腫瘍のことです。口腔がんは直接見ることができるので、比較的発見しやすいがんです。高額なコンピューター断層撮影（CT）、磁気共鳴画像装置（MRI）、PET、腫瘍マーカー（血液検査）などの検査で発見不能な早期がんでさえも、口の中を見ることで見つかることがあります。そして早期の口腔がんの場合90%以上の確率で完治します。

にもかかわらず、残念なことに口腔がん患者さんの約70%は進行がんの状態になってから医療機関を受診されます。一般の方々に口腔がんの存在があまり知られておらず、病変に気づいても放置する方が多いのがその最大の理由です。

口腔がんのできる場所で一番多いのは舌で、ほとんどは舌の側面にできます。次に多いのが歯肉（歯ぐき）です。その他、口蓋（こうがい）部（口の天井）、頬粘膜（ほっぺたの内側）、口腔底（舌の下）、口唇（くちびる）にも発生します。これらは口を開けば見える所が多く、誰でも簡単に異常を確認することができます。

チェック項目は以下の通りです。①口内炎や口の中の傷が2週間たっても治らない②口の中にしこりや腫れ、ザラザラした所がある③口の中に色の違う部分（白斑や赤斑）がある④口の中（舌・歯肉・頬・口唇・口蓋）から出血する

これらに該当するからといって全てが「口腔がん」というわけではありませんが、放置することなくお近くの歯科医院で診てもらいましょう。